

## 追悼 舌間信夫さん

舌間信夫さんが昨年11月に亡くられました。舌間さんは、1927年生まれ。教職退職後、郷土史の研究と詩作に専念されました。郷土史では昭和53年1月から平成27年3月まで37年間にわたり「市報のおがた」に直方・筑豊地域の文化や歴史について掲載されました。子どもたちにも読めるようにと短くわかりやすい文章で書かれ、郷土史を身近に感じることができました。詩作では、「新詩人」「匈奴(ふんぬ)」を経て「匈奴の森」を主宰。詩集「哀しみに満ちた村」で福岡県詩人賞を受賞されました。

「折々の風」によると、舌間さんが郷土史に興味を持ったのは、修学旅行の引率で国立博物館に展示されていた直方市出土の「経筒」が偶然目にとまったことからです。経筒は遠い未来に菩薩が現れた時に渡す経文をいれたものです。未来を思い経筒を埋めた人々がいたのだ、自分の郷土にも歴史があったのだ、との思いを強くしたと書かれています。郷土の人々が昔から続けてきた暮らしや気持ちに思いをさせ、後世に遺していくことが、舌間さんの郷土研究の原動力だったのではと思います。書き残していたいただいた郷土の歴史を次の世代に渡すことが、私たちの仕事だと考えています。

ご冥福をお祈りします。

### 舌間信夫さん著作

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 「直方歴史ものがたり 正・続」N219 /      | 「直方むかしばなし」N388 /    |
| 「直方碑物語」N219 /              | 「直鞍こぼればなし」NL219 /   |
| 「直方人物誌」N281 /              | 「詩集 哀しみに満ちた村」N911 / |
| 「直方文芸史」N910 /              | 「詩集 樹木考」N911 /      |
| 「直方の歴史と文化財」N219 /          | 「詩集 湖の物語」N911 /     |
| 「折々の風 附直方歴史ものがたり・拾遺」N219 / |                     |

せんじょういわ

## 筑豊の民話 -千畳岩-

「今年も豊作じゃ」よく肥えた田んぼを眺めながら庄兵衛は満足気であった。ある日、深い深い川淵に斧を落としてしまった。庄兵衛は躊躇もせず、さぶんと飛び込み、どんどん潜っていった。するとそこには見たこともない御殿があり、美しい乙姫が庄兵衛を迎え入れてくれたのである。それからというもの庄兵衛は、なんとも美味な馳走を食べ、夢のような日々を過ごしていた。が、ふと家のことが気にかかった。「家のことも気になりますので、そろそろお暇いたしたいと思います。」「それは残念。帰られてもここのお話は決して誰にもなさいませんように。もし約束を破ると大変不幸なことになります…。」庄兵衛は渋々約束をして家に帰ったが、そこではなんと自分の三回忌が行われているではないか。集まっていた親類たちがあまりに驚くものだから、自分の身に起きたことをすべて話してしまった。すると、たちまち空には黒雲が立ちこめ、大雨が降り始めた。その雨は三日三晩と降り続き、いつしか庄兵衛自慢の田んぼは岩だらけになっていた。それよりそこは「千畳岩」と呼ばれるようになったのだとか…。(田川郡川崎町)

「ふるさと筑豊 -民話と史実を探る-」 N388 ち 「筑豊弁で語る「筑豊の民話」」 N388 ち  
「しまやの筑豊物語 1~6 (紙芝居)」 Pシ

# 炭鉱犠牲者復権の塔 服部団次郎牧師



服部団次郎は明治 37（1904）年島根県に生まれ、昭和 8（1933）年、沖縄の那覇教会でハンセン病患者と出会います。ハンセン病患者は当時厳しい差別を受け、住むところもなく悲惨な暮らしを強いられていました。服部さんは、患者であり同じ牧師でもある青木恵哉さんと共に、患者の救済に立ち上がり、療養所建設の資金を集めるため全国を回り寄付を集めました。しかし太平洋戦争が起こり、服部さんは心ならずも沖縄を離れることになりました。戦後津和野教会の牧師の時に筑豊の実態を知り、筑豊は沖縄であるとの思いから「沖縄の人々との苦難に連帯したい」と旧宮田町の大之浦炭鉱の炭坑夫として働き始めます。

筑豊では炭鉱の閉山が相次ぎ、失業者とその家族は貧困にあえいでいました。服部さんは元労働者たちが自尊心を取り戻し新しい社会を作り出すための力と指標になる「塔」を作ろうと、王塚跣著「筑豊一代」を、山本作兵衛の画で紙芝居にし、筑豊各地を巡り建設費用を集めました。その際自分の名前を記した石を出してもらいその石で塔を完成させたいと考えました。また外国人炭鉱労働者の名前も記しました。

「死者だけが犠牲者ではなく、筑豊の人すべてが犠牲者なのだ。見捨ててこられた炭坑離職者とその家族、そして筑豊そのものの復権をはかるべきなのではないか」 こうして昭和 52（1977）年、「復権の塔」が完成しました。塔には「すべての国の働く人々は世界の仲間である。かつては断絶や抑圧もあったが この後には連帯と尊厳があるように」と刻まれています。

また服部さんは、炭鉱労働者の幼児のために保育所の創設を志し、宮田町の保育所建設のきっかけとなりました。基準に合わず保育園に入れない子どもたちのために、私立幼稚園を設けました。

「沖縄から筑豊へ その谷に塔を立てよ」 服部団次郎 葦書房 NL567 千  
「筑豊一代」 王塚跣 朝日新聞社 N913 千

## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。  
郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

『「筑豊」に出会い、イエスと出会う』 犬養 光博：著 いのちのことば社 N914 千

教会とは何かー。

イエスに従うとはどういうことかー。

神と人に任えるとは一？

日本の近代化を支えながら、エネルギー政策の転換によって閉山に追い込まれ、大量の失業者を生んだ福岡「筑豊」。

その炭鉱の町で四半世紀近く伝道に取り組んできたなかで、みことばと人々を通して神に教えられてきたことを綴る。



直方市立図書館 直方市山部 301-11 コメニティのおがた内  
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902